令和６年度岡崎市教育研究大会リポート

１　| １５Ｂ | 特別支援教育（中） |

岡崎市立南中学校　蜂須賀　一輝

２　研究テーマ

苦手なことに挑戦し、生徒の一人でできることを増やしていくための指導

３　研究概要

（１）課題設定の理由

特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編では、「『自立』とは、児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすること」と示されている。このことから、生徒の『自立』を目指すため、他者からの支援を手掛かりにもっている力を発揮し、一人でできることを増やしていく必要があると考えた。

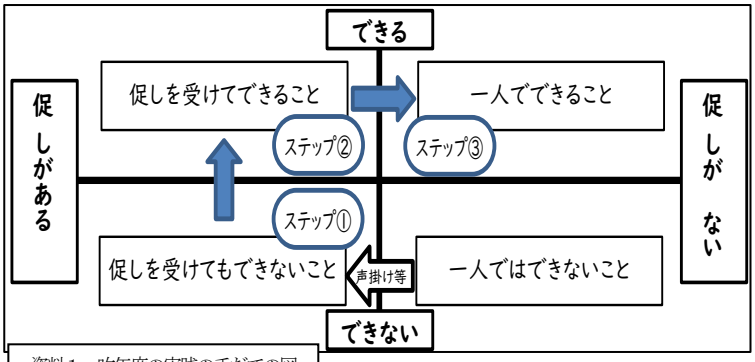
本実践は、自閉症・情緒学級本学級の生徒Ａである。生徒Ａは、知的障害のある自閉症スペクトラムの生徒で、決められた仕事や行動については「促し」を受けることで取り組むことができる生徒である。さらに一度やることが定着し、ルーティン化された行動については、「促し」がなくても一人でできている。ただ、予定にないことや新しいことについては、取り組むまでに時間がかかったり、気持ちを切り替えることができず最後まで取り組めなかったりすることがある。

これまで、中学１年から支援や指導を続けていく中で、日常生活で見られた課題に取り組んできた。中学１年では清掃活動、中学２年では歯磨き活動が一人でできるように支援や指導を行った。毎日行う活動であったため、長期的な視点で支援や指導のタイミングを図りながら行うことができた。その結果、生徒Ａはどちらの活動も「促し」がなくとも一人でできるようになり、中学３年になった今も引き続き取り組めている。

そこで、本実践では生徒Ａが苦手としている「ダンス」の授業において、昨年までの取り組む様子から実態を把握し、これまでの手立てをもとにした支援や指導を行い、苦手なことにも挑戦して一人でできようにしていきたいと考えた。そして、生徒Ａが今後よりよく生きていくための一助になっていきたい。

（３）昨年度の研究とのつながり

昨年度の研究のテーマは「一人で歯磨きができることを目指した日常生活の指導」であった。右の資料１のようにそれぞれのステップを経て徐々に一人でできるように支援や指導を行っていった。



資料１　昨年度の実践の手だての図

まず、ステップ①からステップ②の手立てについては、生徒Ａに「できる」という自信や「やったほうがいい」という必要感をもたせることが重要であることが分かった。具体的には、本人の口で「やります」や「できます」と言えるようにしたり、教師の提案に「分かった」というように納得したりすれば実際に行動に移すことができていた。

次に、ステップ②からステップ③の手立てについては、「やってよかった」や「頑張りたい」といった意欲をもたせることが大切だと分かった。この２か所の手立てを実践していったことで毎日の歯磨きをルーティン化することができた。

今回は、授業における苦手なことに取り組めるようにすることを目指している。そのため、まずはステップ①からステップ②の手立てを丁寧におこなっていきたい。また、短期間での実践になるため授業の時間以外でコミュニケーションを図ったり、環境を整えたりしていきたいと考えた。

（4）目指す生徒像

苦手なことに挑戦し、自分でできることを増やせる生徒

（6）研究の仮説と手立て

①研究の仮説

【仮説１】
生徒が取り組みやすい環境を整え、適切な場とタイミングでその日の目標を確認したり、励ましたりすることで、苦手なことに挑戦するための自信をもち、促しを受けて取り組むことができるだろう。
（ステップ①からステップ②）

【仮説２】
生徒が意欲的に取り組むための工夫をしたり、授業のまとめとなる場を設定したりすることで、苦手なことにも自分から取り組むことができるだろう。（主にステップ②からステップ③）

②研究の手立て

上記の仮説に迫る手立てを次のように考えた。

【仮説１】における手立て
手立て１…意図的な班編成を行ったり、教師も一緒に取り組んだりして、参加しやすい雰囲気をつくる。
手立て２…授業前に、前時に頑張ったことやできたことを確認し、その日の目標を一緒に考えたり伝えたりする。授業中に、適宜声を掛けて自信をもってダンスに取り組めるように促す。

【仮説２】における手立て
手立て３…手本のダンス動画を再生する役割を与える。ダンスを細かく分割し、振り付けごとに何度も練習したり、スローで確認したりして、生徒Ａが練習についていけるようにペースを工夫する。
手立て４…ダンスを発表する場を設定し、班で最後のポーズを楽しく決め、発表会に向けて意欲的に通し練習ができるようにする。

（2）生徒Ａの実態と原因の考察

生徒Ａはもともと聴覚優位の特性があり、動画サイトで見つけた音楽や替え歌などを覚えてきて、独り言のように小声でよく歌っている。休み時間には、自分の好きなお笑い芸人のリズムネタなどを真似している姿も見られる。また、体育で準備運動として南中体操やラジオ体操にも抵抗なく取り組めている。しかし、中学１年のブロック交流会で、ダンス講師を招いて簡単なダンスを教えてもらう際には「ダンス一緒にやろう」と声を掛けてもらっても「ダンスはやりません」「危険だからやらない」などと言い、一切参加することができなかった。さらに、３学期のダンスの授業においても他の生徒や教科担から「Ａさんもみんなと一緒にやろう」と促されても一人だけ体育館の隅で座っていたり、他の生徒が踊っている後ろで手を組んで立っていたりするなど一切取り組むことができなかった（資料２）。

資料２　昨年度のダンスの様子

ダンスに取り組めない原因を次のように考えた。

- **歌やリズムに合わせて体を動かすことが苦手なのを気にして消極的になっているのではないか。**
  →手立て①を通して、苦手なのは自分だけではないことを知り、ダンスに参加しやすい環境を整える。
- **振り付けの全体の見通しが持てなかったり、全て覚えられないと思ったりしているのではないか。**
  →手立て③を通して、手本の動画を見ながら振り付けを確認できるようにしたり、細かく分割して繰り返し練習をしたりすることで少しでも覚えらえるようにする。
- **はじめの練習の段階で参加するタイミングを逃し、自分だけできていない状況になってしまったと感じているのではないか。**
  →手立て①と手立て②を通して、練習に参加しやすい環境を整えたり、適宜声掛けや参加を促したりすることで他の生徒と同じタイミングで練習に参加できるようにする。

（7）研究の実践と検証

【ダンス①】の実践

ダンスの授業では、生徒Ａの原因でも挙げたように、はじめの１，２回の授業で参加できるようにしていきたいと考えた。そこで、体育の教科担と相談をして班を２つに分けるときに、あまりダンスが得意ではない生徒や普段から関わることが多い生徒が生徒Ａと同じ班になるように班編成をした（手立て①）。また、授業が始める前に生徒Ａと右の資料３のような話をした。まだダンスに対してこれまでと同じ反応を示した。そこで、今回の目標を班の人と一緒にいることとした（手立て②）。

１回目のダンスの授業では、準備体操を行った後、実際に行うダンスの紹介、班メンバーの発表を行い、各班ごとに練習を始めていった。生徒Ａが武道場の隅に向かって歩いていくのが見えたため、声を掛けた。「さっき約束したように同じ班の子と一緒にいてよ」と言うと素直に従い練習場所に戻ってきた。

Ｔ：Ａさん。（Ａさんを呼ぶ）
今度の体育からダンスをやるんだって。
「遺伝子 DANCE」っていう曲、知ってる？
Ａ：知りません。
Ｔ：先生も知らなかったんだよね。そういえば去年はダンス全然できなかったじゃん。ちょっと今
年は頑張ってやってみない？
Ａ：ダンスはやりません。ダンスはやらないことになっているのでやりません。
Ｔ：そうなんだね。じゃあ、今日は踊らなくていいから班の子たちと一緒にいてね。ひとりで、武道場の隅で座ったりするのはやめてね。
Ａ：わかりました

資料３　ダンス①での教師と生徒Ａの会話

練習はタブレットにダウンロードした手本動画を再生しながらその振り付けを真似して行った。教師も他の生徒と一緒にダンスの練習を行い「先生ちょっとダンス苦手だからゆっくりやって」や「ちょっとここ難しいね」など生徒Ａに聞こえるように言いながら進めていった。

途中で動画のスタートを生徒Ａにお願いすると、すんなりと受け入れその後のスタートの合図はすべて生徒Ａが進んで行っていた。

授業の終わりごろに「最初の手拍子だけ一緒にやってみない？」と参加を促すと、少し考えてから「わかった」と言って手拍子だけ参加することができた。

資料4　ダンスで使用した曲

【ダンス①】の検証

ダンス①の実践では、手立て①、②、③を行った。

手立て①では、班編成でダンスのあまり得意ではない生徒を同じ班にしたことや教師が一緒に練習をして「難しい」と感じていることを共有することで、生徒Ａにとって参加しやすい雰囲気をつくれたと考える。

手立て②では、事前にダンスの授業について目標を決めたことで安心して最初の授業に臨むことができたと思う。授業の終わりごろに、少し参加できそうな感じだったので手拍子だけやるように促すと、それを受け入れて少しだけ参加することができたことからも、手立て①と②が有効であったと言えるだろう。

手立て③では、スタートの合図を出す役割を任せることで、生徒Ａにとって班の中での役割が生まれ、意欲的に活動できたのでないかと考える。

【ダンス②】の実践

２回目のダンスの授業前に、生徒Ａと右の資料５のような話をした。波線のように、ダンスに対して拒絶反応ではなく、受け入れようとしており、本人の口から「やってみる」と言えたことが大きかった（手立て②）。

授業では、準備運動後に班に分かれて練習を始めていった。練習前に生徒Ａに「さっきの約束は覚えている？」と聞くと「覚えている」と言って、他の生徒と同じように練習場所に立った。生徒Ａが、「（立つ位置が）みんなの後ろの方がいい」と言ったので、後列に移動して練習を始めた。生徒Ａは、前列の生徒の動きを真似して踊っていた。最初

Ｔ：前の授業では、ちょっと参加できて良かったね。
今日は一緒にやってみるか。
Ａ：・・・
Ｔ：もう一度最初から練習するからやってみない？
分からないところは丁寧に教えてあげるから。
どうかな？
Ａ：うーん。わかった。やってみる。
Ｔ：ＯＫ、じゃあ今日は一緒にやろう。約束ね。
Ａ：ＯＫ。

資料５　ダンス②の教師と生徒Ａの会話

は、難しそうだったが何度も繰り返し同じところを練習していくうちにだんだんとできるようになってきて、「とっても上手になってきたね。」と声を掛けると、嬉しそうにしていた。そのまま、最後まで班のメンバーと一緒に練習に参加することができた。中学校に入ってから初めてダンスを踊ることができた。

また、この授業でも手本動画の再生や巻き戻しの役割を生徒Aが担っており、「じゃあもう一回最初からやろう」というと自分からタブレットを操作する姿も見られた。

【ダンス②】の検証

ダンス②の実践では、主に手立て②を行った。

手立て②では、苦手なことに一歩踏み出し切れない生徒Aに対して、もうひと押し促す声掛けを行ったことで、生徒Aの「やってみる」という言葉を引き出すことができた。生徒Aに「できるかもしれない」という苦手なことに対して自信をもたせることができたのではないかと考えた。実際に、やり始めてみると思いのほかスムーズに練習についていけることも分かった。

【ダンス③】の実践

３回目以降は、「今日のダンス練習も頑張ってね」と声を掛けると「はい」と言って元気よく返事して、授業に向かっていった。練習の様子を見ていても、自分から「もう一回」と言って動画を巻き戻して何度も繰り返し練習に取り組んでいたり、立つ位置も資料６のように前列に移動してきたりしていた。

資料6　練習の様子

そして、ダンスのまとめとして発表会をすることになった。生徒Aにも「ステージの上で踊るけど大丈夫？」と聞いたが「大丈夫」と言っていた。発表会のラストに班で決めポーズをすることになりみんなで考えていると生徒Aが「ダチョウ倶楽部のコントのやつをやりたい」と提案した。この提案を採用し、ダンス後の「ありがとうございました」の直前にそのコントを行うことになった（手立て④）。

最後の授業では、直前まで本番に向けて通し練習を行っていた。本番では、資料７のようにステージの上で練習してきたダンスとコントを披露することができた。

資料7　発表会本番の様子

【ダンス③】の検証

ダンス③の実践では、主に手立て④を行った。

手立て④では、ダンスの学習のまとめとして発表会を行った。このときには、生徒Aはダンスに対しても意欲的に取り組み、「促しがなくてもできる」状態になっていたと考える。さらに、自分の好きなダチョウ倶楽部のコントを決めポーズとして提案しており、より熱心になっていることが分かる。以上から、手立て④も有効であったと考える。

（８）研究の成果

（ｉ）【仮説１】について

生徒が取り組みやすい環境を整え、適切な場とタイミングでその日の目標を確認したり、励ましたりすることで、苦手なことに挑戦するための自信をもち、促しを受けて取り組むことができるだろう。

手立て①については、事前に班の編成を考えておいたことで、生徒Aが安心してダンスに取り組むきっかけになったと考える。授業が進んでいった際も、生徒Aだけできない状況は生まれなかった。また、教師も一緒に練習したことも、生徒Aが取り組もうと思うきっかけになったと感じる。

また、手立て②については、事前にその日の目標を確認し、「わかった」や「やってみる」と生徒Aが言

えたことで、生徒A自身の覚悟ができたのではないかと考えた。多少強引な促しだったかもしれないが、生徒Aの「やってみる」は苦手なダンスに対して「できるかもしれない」という自信をもたせることができたのではないかと考えた。よって、手立て①と②は生徒Aにとって有効的であった。

（ⅱ）【仮説２】について

生徒が意欲的に取り組むための工夫をしたり、授業のまとめとなる場を設定したりすることで、苦手なことにも自分から取り組むことができるだろう。

手立て③については、生徒Aの特性にもあっていたと考える。動画をスタートさせる役割を任せられたことや繰り返し何度も練習を行ったことで、責任感や安心感をもって取り組めていたように感じる。練習の見通しを持つことができ、少しずつ自分のダンスが上手になっていることが生徒Aにも分かっていたため、意欲的に取り組み続けることができた。また、手立て④の授業のまとめで行った発表会では自分の意見も提案していた。この姿はダンスに対して意欲的に取り組めていることそのものだと考えた。よって手立て③と④についても有効的であった。

（９）さいごに

本実践では、１年生のときから避け続いていたダンスについて、短い時間の中で自信と意欲を持たせることによって一人でできるところまで支援や指導をすることができた。

生徒Aについては、この３年間で多くの課題を克服し、多くのことが一人でできるようになった。今回のようにその中には、中学１年で拒絶していたこともあった。

しかし、先日行われた校舎の教育相談では、自分の予定していた手段で現地に行くことできず、現地に着いた時には、予定が変わったことによる不安と知らない人と話をしないといけないことによる不安でパニックとなり、「おれはここから動かない」と言い昇降口のところで座り込んでしまった。生徒Aには、まだまだ課題があることを痛感した。卒業までの残りの期間で一つでも多くの課題が克服できるように、今後も指導と支援を行っていきたい。